

第 6 回宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 平成 11 年 2 月 10 日（水）
 14：00～
2. 場 所 科学技術庁 委員会会議室
3. 議 題 (1) 国際宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の選定結果について
 (2) 日本人宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の基礎訓練計画について
 (3) その他
4. 資 料 委 6 - 1 国際宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の選定結果について
 委 6 - 2 日本人宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の基礎訓練計画について
 委 6 - 3 第 5 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

平成11年 2月10日
宇宙開発事業団

国際宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の選定について

宇宙開発事業団では、国際宇宙ステーション（ISS）に滞在し、その運用及び利用に携わる日本人宇宙飛行士を養成するため、候補者の選抜作業を進めてきたが、本日、別紙の3名を宇宙飛行士候補者として選定した。

○選抜経緯

- (1) 募集（平成10年2月9日～4月30日）
応募者 : 864名（平成10年5月発表）
- (2) 書類選抜
合格者 : 195名（平成10年6月発表）
- (3) 第一次選抜（平成10年7月4日、5日：筑波宇宙センター）
試験項目：一次医学検査並びに一般教養、基礎的専門知識及び心理適性に係る筆記試験
合格者 : 54名（平成10年8月発表）
- (4) 第二次選抜（平成10年8月30日～9月19日：筑波宇宙センター）
試験項目：二次医学検査及び面接試験（心理、英語、一般・専門）
合格者 : 8名（平成10年11月発表）
- (5) 第三次（最終）選抜（平成10年11月28日～12月14日）
試験項目：長期滞在適性検査（筑波宇宙センター）及び面接試験（本社、NASAジョンソン宇宙センター）
3名選定（本日発表）

○今後のスケジュール

今回選定された宇宙飛行士候補者は、宇宙飛行士として必要となる科学・技術の知識、語学、日本の実験モジュール（JEM）を含むISSシステムの概要等を学ぶため、筑波宇宙センターを中心に実施される1年半程度の基礎訓練を受ける。これらの訓練結果を評価のうえ、ISS搭乗宇宙飛行士として認定されると、ISSの各システム及びその操作技術等を約1年間学ぶこととなる。その後、搭乗するミッションが割り当てられると、そのミッションを遂行するためのISS操作手順、実験操作手順等の訓練を1年半程度行い、3～6ヶ月程度の期間ISSに滞在することとなる。

なお、宇宙飛行士候補者3名のうち2名（古川及び星出）については、今後、転籍等の諸般の手続きが済み次第、搭乗部員として訓練を開始する。また、最も年齢の若い角野については、現在の宇宙ステーション計画上は直ちに搭乗部員として訓練に参加する必要はないものの、前記2名に比して甲乙つけ難いと判断されることから宇宙飛行士候補者として選定し、今後のISS組立の進捗状況、日本人宇宙飛行士の搭乗計画等を踏まえて、必要とされる時期に至った段階で搭乗部員としたうえで、訓練に参加させる。

以 上

宇宙飛行士候補者略歴

氏 名	古川 聡
生 年 月 日	昭和39年 4月 4日（34歳）
出 身 地	神奈川県横浜市
現 住 所	東京都足立区
現 職	東京大学医学部附属病院 第1外科医員
勤務先住所	東京都文京区本郷7-3-1
学 歴	平成元年3月 東京大学医学部医学科卒業
職 歴	平成元年6月 東京大学医学部附属病院 研修医（麻酔科、外科） 平成2年6月 茨城県立中央病院 外科研修医 平成3年6月 茨城県立中央病院 外科医員 平成6年4月 東京大学医学部附属病院 第1外科医員 平成6年7月 桜ヶ丘病院外科 平成7年1月 東京大学医学部附属病院 第1外科医員 平成8年12月 桜ヶ丘病院外科 平成9年6月 東京大学医学部附属病院 第1外科医員 現在に至る
家 族	妻、長女、長男
趣 味	ドライブ、音楽鑑賞、野球、ボウリング、算数

宇宙飛行士候補者略歴

氏 名	星出 彰彦
生 年 月 日	昭和43年12月28日 (30歳)
出 身 地	東京都世田谷区
現 住 所	茨城県稲敷郡
現 職	宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 宇宙環境利用推進部 有人宇宙活動推進室 開発部員
勤務先住所	茨城県つくば市千現2-1-1
学 歴	平成4年3月 慶応義塾大学理工学部機械工学科卒業 平成9年12月 UNIVERSITY OF HOUSTON CULLEN COLLEGE OF ENGINEERING 航空宇宙工学 修士課程修了
職 歴	平成4年4月 宇宙開発事業団 名古屋駐在員事務所 平成6年4月 宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 宇宙環境利用推進部 平成9年4月～ 宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 宇宙環境利用推進部 有人宇宙活動推進室 現在に至る
家 族	独身
趣 味	ラグビー、水泳、旅行、スキー、ドライブ、飛行機操縦、ギター

宇宙飛行士候補者略歴

氏 名	角野 直子
生 年 月 日	昭和 4 5 年 1 2 月 2 7 日 (2 8 歳)
出 身 地	千葉県松戸市
現 住 所	茨城県つくば市
現 職	宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 セントリフュージ・プロジェクトチーム 開発部員
勤務先住所	茨城県つくば市千現 2 - 1 - 1
学 歴	平成 5 年 3 月 東京大学工学部航空学科卒業 平成 8 年 3 月 東京大学大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻 修士課程修了
職 歴	平成 8 年 4 月 宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 J E M プロジェクトチーム 平成 10 年 6 月 宇宙開発事業団 宇宙環境利用システム本部 セントリフュージ・プロジェクトチーム 現在に至る
家 族	独身
趣 味	琴、書道、ダイビング、テニス、ジャズダンス

〈参考〉宇宙飛行士候補者の各段階選抜結果の内訳

		応募者	書類選抜 合格者	第一次選抜 合格者	第二次選抜 合格者
合 計		864名	195名	54名	8名
①男女別	男 性	780名(90%)	176名(90%)	53名(98%)	7名(87%)
	女 性	84名(10%)	19名(10%)	1名(2%)	1名(13%)
②年齢別	20歳未満	1名(0.1%)	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)
	20～24歳	6名(1%)	0名(0%)	0名(0%)	0名(0%)
	25～29歳	237名(27%)	40名(21%)	15名(28%)	2名(25%)
	30～35歳	429名(50%)	104名(53%)	26名(48%)	3名(38%)
	36～40歳	159名(18%)	46名(24%)	11名(20%)	3名(38%)
	41歳以上	32名(4%)	5名(3%)	2名(4%)	0名(0%)
③職業別	会社員	521名(60%)	109名(56%)	31名(57%)	1名(13%)
	公務員	133名(16%)	27名(14%)	10名(19%)	4名(50%)
	自営業	11名(1%)	1名(0.5%)	1名(2%)	0名(0%)
	学 生	42名(5%)	10名(5%)	1名(2%)	0名(0%)
	その他	157名(18%)	48名(25%)	11名(20%)	3名(38%)

日本人宇宙ステーション搭乗宇宙飛行士候補者の基礎訓練計画について

平成 11 年 2 月 10 日

宇 宙 開 発 事 業 団

1 内容

選定された新規宇宙飛行士候補者を対象に今後実施する基礎訓練の計画について。

2 背景

- (1) 国際宇宙ステーション（ISS）に搭乗する日本人宇宙飛行士候補者については、平成 10 年 2 月より募集選抜が開始され、本日最終的に候補者が選定された。
- (2) ISS 搭乗宇宙飛行士候補者の訓練のうち初期段階の基礎訓練（別紙 1 参照）については、ISS 計画に参加する各国際パートナーの責任において所要の課程を履修することとされており、本日選定された日本人 ISS 搭乗宇宙飛行士候補者の基礎訓練は、筑波宇宙センターを中心として NASDA が実施する予定である。
- (3) 基礎訓練については国際間共通要求に基づき準備作業を進めてきており、本年 1 月に主要な準備を完了している。

3 基礎訓練実施計画

(1) 対象

日本人 ISS 搭乗宇宙飛行士候補者

(2) 訓練実施項目

基礎訓練で実施する訓練項目を表 1 に示す。

(3) 実施時期

平成 11（1999）年 3 月頃～平成 12（2000）年 9 月頃の 1.5 年（最も早い場合の想定。候補者の採用時期等により決定）

以上

表1 日本人 ISS 搭乗宇宙飛行士基礎訓練項目

分類	項目	時間
イントロダクション	オリエンテーション	37
	訓練計画概要	5
	宇宙活動の現状と枠組	6
	世界の宇宙開発	7
	日本の宇宙開発	3
	施設ツアー	105
基礎工学	航空宇宙工学概論	10
	電気・電子工学概論	18
	計算機概論	17
宇宙機システム・運用概要	スペースシャトル概要	10
	ロシア宇宙機概要	39
	アリアン概要	1
	H-II 概要	3
ISS/JEM システム	ISS 運用	9
	ISS システム	73
	JEM システム・運用訓練	92
サイエンス	宇宙科学研究	12
	ライフサイエンス	71
	微小重力科学	39
	地球観測・宇宙観測	40
基礎能力訓練	一般サバイバル技術訓練	40
	水泳技術	5
	SCUBA	68
	心理支援プログラム	31
	健康管理	24
	体力訓練	104
	無重量体感訓練（ジェット機による弾道飛行：パラボリックフライト）	8
	低圧環境適応訓練	27
	WETS-EVA 訓練（水中での宇宙服着用船外活動訓練）	39
	飛行機操縦訓練	240
	写真技術	24
	英語	200
	ロシア語	200
	日本語メディア対応訓練	17
	英語メディア対応訓練	8

国際宇宙ステーション（ISS）搭乗宇宙飛行士に係る訓練について

ISS 搭乗宇宙飛行士の飛行までの訓練フローを下図に示す。新たに選抜された宇宙飛行士候補者は、約 1 年半にわたり NASDA が実施する基礎訓練を受ける。その後、ISS 全体の運用訓練（アドバンスト訓練）を受け、飛行割当後、飛行期間に実施するミッションの訓練（インクリメント固有訓練）を受けて搭乗に至る。なお、宇宙飛行士候補者は、基礎訓練終了後、評価の上 ISS 搭乗宇宙飛行士としての認定を受けることになる。

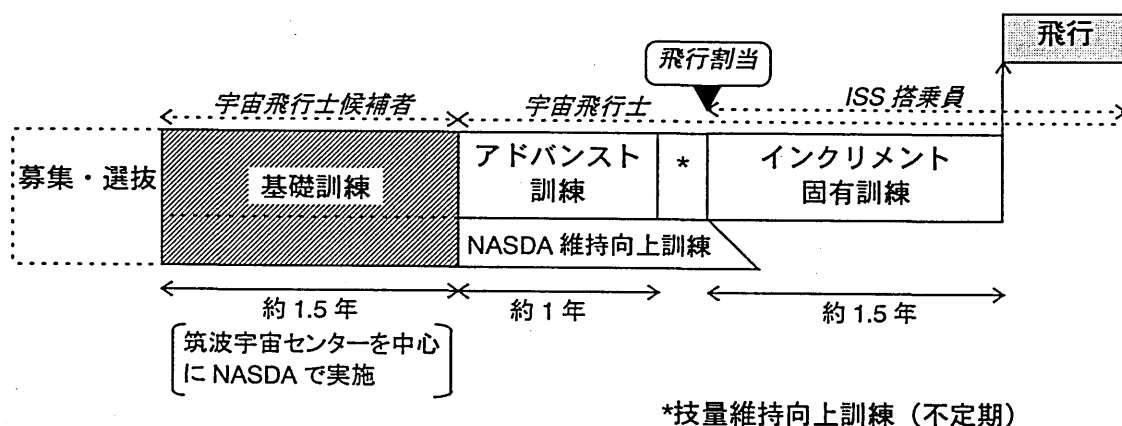


図 日本人 ISS 搭乗宇宙飛行士の訓練フロー

第 5 回宇宙開発委員会（定例会議）
議事要旨（案）

1. 日 時 平成 11 年 2 月 3 日（水）
 14:00～15:00
2. 場 所 委員会会議室
3. 議 題 (1) 技術試験衛星Ⅶ型「きく 7 号」（ETS-Ⅶ）によるロボットアーム
 実験について
 (2) その他
4. 資 料 委 5-1 技術試験衛星Ⅶ型（ETS-7）の宇宙ロボット実験－航技
 研：トラス構造物遠隔操作実験
 委 5-2-1 第 3 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨
 委 5-2-2 第 4 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

5. 出席者

宇宙開発委員会委員長代理
宇宙開発委員会委員

〃
〃

長 柄 喜一郎
秋 葉 鐔二郎
末 松 安 晴
澤 田 茂 生

関係省庁

通商産業省機械情報産業局次長
郵政大臣官房技術総括審議官

林 良 造（代理）
甕 昭 男（代理）

事務局

科学技術庁研究開発局長
科学技術庁研究開発局宇宙政策課長

池 田 要
船 橋 英 夫 他

6. 議 事

- (1) 技術試験衛星Ⅶ型「きく 7 号」（ETS-Ⅶ）によるロボットアーム実験について
科学技術庁航空宇宙技術研究所より、技術試験衛星Ⅶ型「きく 7 号」（ETS-Ⅶ）
によるロボットアーム実験について、報告があった。（資料委 5-1 参照）

(2) その他

事務局より、第 3 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨について、追加箇所の説明があった。（資料委 5-2-1 参照）

また、第 4 回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）について説明があった後、原案通り了承された。（資料委 5-2-2 参照）

以 上